

| | | | | | |
|-----------|--|--|---------|----|----|
| 科目名 | 言語学 | 単位数 | 2単位 | 学期 | 前期 |
| 担当教員 | 三ツ井 正孝 | | 実務経験の有無 | | × |
| 科目区分 | カリキュラムマップを表示する | 関連するディプロマポリシー | | | |
| ナンバリング | X-21-A-1-110022 | 国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること | | | |
| 授業の目的 | 言語学—我々が日々用いていることばがもつありのままの姿を見つめ、その背後にある仕組みをうかび上がらせることを目的とする学問分野—の基本、すなわち、言語学上重要な概念と、その概念を用いて言語を分析する際の基本的な方法を学ぶ。 なおこの授業は、「グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しをもって向きあう実践的な態度を獲得し、国境を超えた個別具体的問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること」「仕事の仕組みを系統的に考え、データを重視した論理的な判断ができること」のための科目のひとつとなる。また、「グローバルなネットワーク社会で活躍するための、国際理解とコミュニケーションに必要な英語力の基礎があること」「高度な語学運用力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていること」に対しても有効である。 | | | | |
| 学修到達目標 | 言語学の基本的な考え方を理解し、基礎的な知識を習得すること。さらに、実際の言語分析に応用できること。 | | | | |
| 実務経験との関連性 | | | | | |

| 授業計画 | |
|------|--|
| 第1回 | 1) イントロダクション 今年度の授業方針について説明する。 2) 言語とは：ミツバチの「ことば」も言葉？・その1 動物の「言葉」と人間の言語との違いを考える。 人間の言葉に関して示された課題を解決する。 |
| 第2回 | 言語とは：ミツバチの「ことば」も言葉？・その2 動物の「言葉」と人間の言語との違いを考える。 人間の言葉に関して示された課題を解決する。 |
| 第3回 | 言語学とは：言葉にはいくつかの力がある。 言語および言語学の諸側面を紹介する。 |

| | |
|------|---|
| 第4回 | 世界の言語：日本語の「名前」は英語で「name」。音も発音も似てるけど……。 世界の言語はどのような「仲間」に分けられるのかという点を考える。 日本語と他言語との比較に関する課題を解決する。 |
| 第5回 | 音の問題（1）：「あ」「い」「う」「え」「お」。発音をあらためて観察してみよう。 「音声学」の基本的な考え方を学ぶ。 日本語の音声（母音）に関して示された課題を音声学的に解決する。 |
| 第6回 | 音の問題（2）：「さんまい（3枚）」と「さんかい（3回）」、ふたつの「ん」は発音が違う！ 日本語の音声（子音）に関して示された課題を音声学的に解決する。 |
| 第7回 | 音の問題（3）：そうはいっても、「ん」は「ん」。 「音韻論」の基本的な考え方を学ぶ。 日本語の音声に関して示された課題を音韻論的に解決する。 |
| 第8回 | 語の問題（1）：「本」は1語。「箱」も1語。だったら、「本箱」は2語？ 「形態論」の基本的な考え方を学ぶ。 日本語の形態論に関して示された課題を解決する。 |
| 第9回 | 語の問題（2）：「NASA」「UNESCO」「NUIS」、共通点は何？ 前回の内容をふまえ、語構成や語の生産の問題を学ぶ。 日本語の形態論に関して示された課題を解決する。 |
| 第10回 | 意味の問題（1）：「上がる」の意味を聞かれたら？「上へ行く」？では「登る」は？ 「意味論」の基本的な方法を学ぶ。 日本語の意味論に関して示された課題を解決する。 |
| 第11回 | 意味の問題（2）：単語にも「ネットワーク」がある！ 前回の内容をふまえ、様々な意味の関係、および、意味論の研究方法を学ぶ。 日本語の形態論に関して示された課題を解決する。 |
| 第12回 | 文法の問題（1）：「品詞」「活用」「5文型」だけが文法じゃない！ さまざまな「文法論」の側面を学ぶ。 日本語の文法論に関して示された課題を解決する。 |
| 第13回 | 文法の問題（2）：「殴られだろうた」ってどうして言わないの？ 前回の内容をふまえ、文の構造の問題を考える。 日本語の文法論に関して示された課題を解決する。 |

| | |
|------|--|
| 第14回 | 文をこえた文法：「この部屋暑いね」「そうだね」「……それだけ？」 「語用論」の基本的な考え方を学ぶ。 日本語の語用論に関して示された課題を解決する。 |
| 第15回 | 言語と社会：「俺が読むよ。」「私が読むわ。」「おらが読むだ。」「いや、わしが読むのじゃ！」 「社会言語学」の基本的な考え方を学ぶ。 日本語を例として、社会言語学に関して示された課題を解決する。 |
| 第16回 | 試験 |

| 授業時間外の学習 | |
|-----------|--|
| 【予習】時間・内容 | 1時間。教科書、および配付資料を通じての予習。 |
| 【復習】時間・内容 | 3時間。配付資料の見直しと不明点を調べ理解する。また、提示された課題を解決する。 |

| 成績評価 | |
|-----------|---|
| 評価基準・方法 | 【成績評価】定期試験80%、小テスト・授業内レポート10%、授業態度・授業への参加10%。 【フィードバックの方法】点数分布や平均点などをポータルサイト等にて公表し、講評を加える。 |
| フィードバック方法 | 試験後に講評を発表する。 |

| アクティブラーニング | |
|------------|--|
| 実施の有無 | ○ |
| 実施内容 | PBL（課題解決型学習） |
| 教科書/参考書 | 佐久間淳一・加藤重弘・町田健著 『言語学入門』（研究社） |
| 受講上の留意点等 | <p>データは基本的に日本語。したがって、受講するにあたって外国語に堪能である必要はない。むしろ、日本語に対して敏感であって欲しい。ただし、「言葉の乱れ」や「美的な言葉」に敏感であれと言うのではない。この講義は「言葉の乱れ」の矯正や「美的センスのある言い回し」の習得を目的にはしていない。一方で、「言葉は生きているのだから変わるのは当然」というステレオタイプなものの見方もしない。この表現は思考停止でしかない。</p> <p>日本語に敏感であれ、というのは、「言葉の乱れ」や何の変哲もない日常の表現にひそむシステムを見出せる、「言葉は生きているというのなら、どのように生きているのか」を問える、そのような態度であれ、ということである。</p> <p>「授業目的」のとおり、この授業の（そして言語学の）目的は、言葉がもつありのままの姿を見つめ、その背後にある仕組みをうかび上がらせることにある。この点を十分に念頭に置いておいてほしい。</p> |
| JABEE | |